

施策名：インターネットトラフィック流通効率化等促進事業

総務省データ通信課
03-5253-5853 internet_traffic@ml.soumu.go.jp

分野	5Gなどの情報通信基盤の早期整備	総合戦略該当箇所	横2-1-(1)-i	予算額	令和2年度3次補正一般会計 1,000百万円
-----------	------------------	-----------------	------------	------------	---------------------------

特徴・ポイント

- ✓ インターネットトラフィックの流通を総合的に効率化するため、①トラフィック発生予測、②地域への分散、③品質測定手法の確立 を実施
- ✓ 特に地域への分散に関し、地域のISPやコンテンツ事業者等が接続可能な地域IX・CDN等を設置することにより、トラフィック集約拠点の地域への分散を促す実証を実施

目的

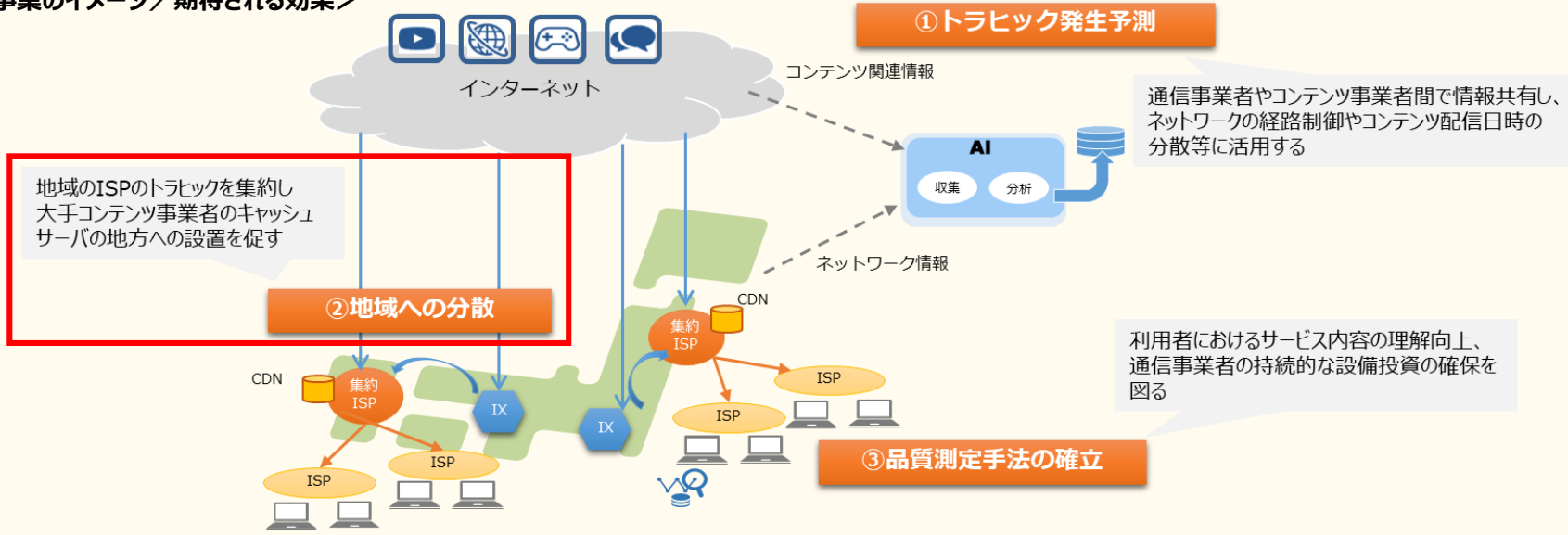
- ・ 「新たな日常」で急増する通信トラフィックの混雑緩和や都市部での大規模災害発生時のリスク回避のため、トラフィック集約拠点の地域分散や関係者間の連携による対策等を推進する。
- ・ トラフィック集約拠点の地域分散については、地域のISPのトラフィックを集約し、大手コンテンツ事業者のキャッシュサーバの地方への設置を促すことで、地域での折り返し通信やキャッシュによるトラフィック量の削減を図り、ネットワーク利用の効率化を推進することを目的とする。

概要

- ・ 我が国のインターネットトラフィックの流通を総合的に効率化するため、以下を実施。
- ① トラフィック発生予測の活用によるネットワーク負荷の緩和
- ② **トラフィック集約拠点の地域への分散によるネットワーク効率化**
- ③ 固定ブロードバンドの品質測定手法の確立

詳細

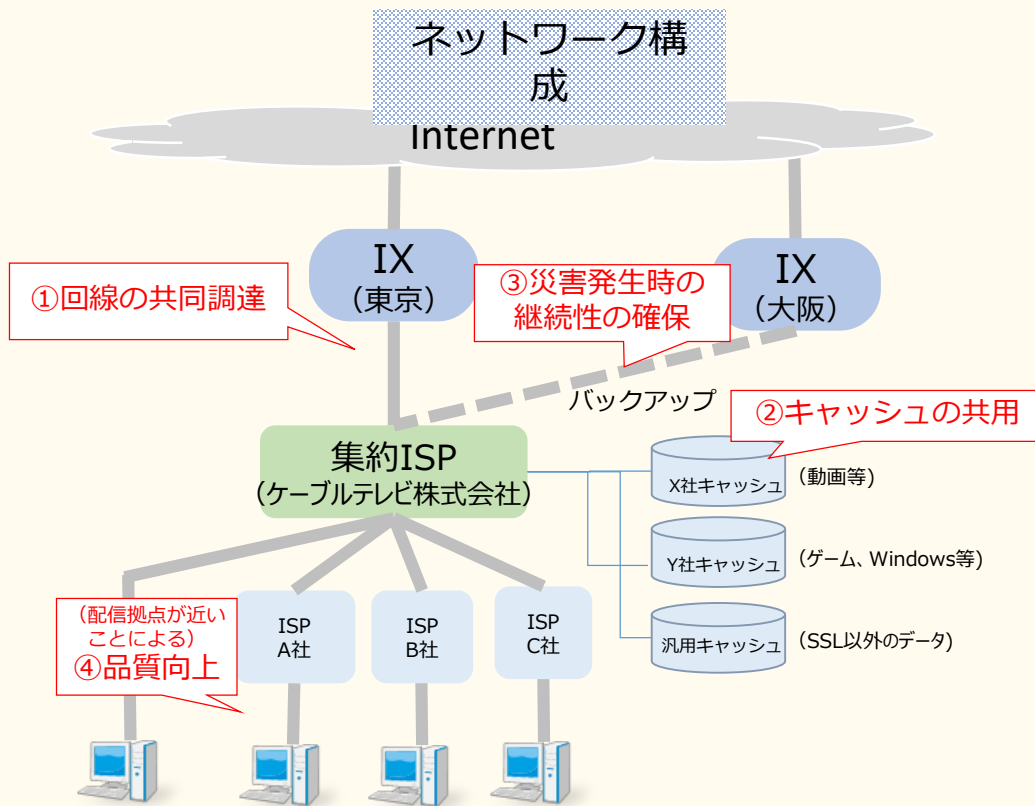
<対象事業のイメージ/期待される効果>



(注)トラフィック: ネットワーク上を流れるデジタルデータの量
 IX(Internet eXchange): 複数のISPの中継拠点、ISP(Internet Service Provider): インターネット接続事業者
 CDN(Content Delivery Network): コンテンツを効率良く配信するための仕組み
 キャッシュサーバ: 頻繁に利用されるデータのコピー(キャッシュ)を配置したサーバ。利用者に近いサーバから配信することなどにより、コンテンツを効率良く配信する。

トラフィック集約拠点の地域への分散化の事例

栃木県内の4つの事業者により「集約ISP」を構築し、①回線の共同調達、②キャッシュの共用、③災害発生時の継続性の確保、④品質向上を実現。



機械室



NW機器、サーバ搭載ラック

